

研 究 紀 要

書 道 部 会

講演1 「大東文化大学所蔵『宇野雪村文庫』拓本資料について」	大東文化大学書道教育研究所 講師 藤 森 大 雅 …… 1
講演2 「書写書道教育の変遷とわたし」	日展特別会員・大東文化大学 名誉教授 田 中 裕 昭 大東文化大学書道教育研究所 講師 藤 森 大 雅 …… 4
研究授業「鑑賞の視点を広げる授業実践」	青森県立青森西高等学校 教諭 豊 沢 日乃梨 …… 6
研究発表「これまでの教育実践を振り返る」	青森県立八戸東高等学校 教諭 諏訪内 博 彦 …… 7
部 会 の 動 き ……	1 1
研 究 テ ー マ ……	1 2

紀要編集委員 西 沢 琴 音
(青森県立青森西高等学校)
前 田 駿
(青森県立野辺地高等学校)

書 道 部 会

講演 1

「大東文化大学所蔵『宇野雪村文庫』拓本資料について」

講師 大東文化大学書道研究所講師 藤 森 大 雅

1 「宇野雪村文庫拓本」の概要

昭和の書壇を代表する前衛作家、宇野雪村（1912－1995）氏が碑版、法帖、文房四宝、明清から近世の墨跡などを永年に渡って蒐集していたことはよく知られているところである。それらの蒐集品は宇野氏没年の10月、拓本・法書・書画・文房四宝・金石書等、約3000点が「宇野雪村コレクション」として五島美術館に寄贈され、同年11月には法帖2点（『松桂堂帖』、『蘭亭序』）および碑版12点が北京故宫博物院に寄贈され、1997年9月には書籍・拓本・影印本等が大東文化大学に寄贈された。これら膨大な蒐集品を散在させることなく、博物館・美術館・大学といった公的な機関にまとめて寄贈するに至った背景にはご子息である宇野公容氏の意向があった。これにより「宇野コレクション」の全貌を窺い知ることができるのは、後学にとって大いに益することは言うまでもない。

大東文化大学への寄贈は宇野氏が1969年から1985年まで教鞭を執っていたことが機縁となり、5000冊以上の影印本・洋装本と1434点の拓本が寄贈され、2004年に「宇野雪村文庫拓本目録」が完成した。

2 「宇野雪村文庫拓本」の内容

「宇野雪村文庫拓本」の内容は、中国の西周から清末の他、日本の奈良、鎌倉、江戸、昭和期の拓本類に及んでおり、一部の国や地域または時代や様式などに限定されていない。実物資料によって書の歴史を俯瞰的に捉えようとする宇野氏の姿勢が見てとれる。

また、高等学校芸術科書道の教科書に掲載されている古典から、あまり知られていない小品までも含まれている点、さらに原拓に限らず翻刻・重刻・偽刻がある他、初拓に限らず近拓まで幅広い。書法的価値や拓本の真贋・新旧といった資料的価値に重きをおいた蒐集ではないことが理解されよう。「宇野雪村文庫拓本」は個人の蒐集品の枠組みを超えた、宇野雪村の書学と言っても過言ではないだろう。

3 「宇野雪村文庫拓本」の活用

大東文化大学では建学以来培ってきた漢学と書道に係る研究が行われてきた。その取り組みを「漢学・書道の学際的研究拠点の形成による『東洋人の“道”』研究教育の推進」と題し、文部科学省の平成30年度私立大学ブランディング事業に採択された。書道研究所は「拓本コレクションのデータベース化」チームとして、大東文化大学が所有する東洋の知的財産資源である拓本コレクションを精査し、デジタル・アーカイブスとして公開することを目的とした「宇野雪村文庫拓本」の調査を行った。この成果は冊については2021年3月8日から「大東文化大学デジタル・アーカイブスサイト」(https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721daito)上で一般公開されている。整本については調査済みのものから今後公開を予定している。

「大東文化大学デジタル・アーカイブスサイト」は拓本の名称による検索の他、“墓誌”といったキーワード検索にも対応し、画像は保存、印刷が可能である。国内外の研究、教育に幅広く活用されることを願っている。



デジタルアーカイブスサイト



宇野雪村拓本目録

4 「宇野雪村文庫拓本」一覧表

講演当日会場に展示した拓本資料を以下に示す。資料は時代順に配列し、拓本の形状、拓本の優劣・出土状況・跋文、鑑蔵印・など、簡単な解説を付した。なお、目録番号は大東文化大学書道研究所発行の「大東文化大学書道研究所蔵『宇野雪村文庫拓本目録』」である。大学ホームページ上で公開しているので「デジタルアーカイブスサイト」と併せてご活用いただきたい。

(1) 賈武仲妻馬姜墓記／【整】目録番号 23

後漢・延平元年 (106)

韵村の墨書題記あり。羅振玉 (号：松翁, 1866-1940) が採拓して贈ったもの。

(2) 陽三老石室題字／【整】目録番号 24

後漢・延平元年 (106) 12 月

端方 (号：匋齋, 1861-1911) 蔵石。漢代最小の文字。

(3) 子游残碑／【整】目録番号 169

後漢・元初 2 年 (115) 以後

「安陽漢刻四種」の 1 つ。嘉慶 3 年 (1798) 出土。その後盗まれて民国 3 年 (1913) に上下に切断された状態で発見される。上部「賢良方正」は天津市芸術博物館蔵石。下部「允字子游」は安陽市文化館蔵石。

(4) 乙瑛碑／【整】目録番号 50

後漢・永興元年 (153)

山東省曲阜「漢魏碑刻陳列館」蔵石。擦拓。

(5) 李孟初碑／【冊】目録番号 53

後漢・永興 2 年 (154)

山本竟山 (1863-1934) 旧蔵。清朝・道光初期の拓。「李」字未損の初拓に近いもの。石碑下部に清末・金陵の題記が刻されている。

(6) 朝侯小子残碑／【整】目録番号 110

後漢

故宮博物院蔵石。擦拓。旧拓。碑陰にも文字があるが、その拓本は希少。

(7) 魏鄒枢銘／【整】目録番号 654

西晋・元康 8 年 (298) 2 月 10 日

塹。拓本の数が少なく希少。

(8) 広武將軍碑／【冊】目録番号 294

苻秦・建元 4 年 (368)

碑陽, 碑陰, 碑側全て揃っている。

(9) 中嶽嵩高靈廟碑／【冊】目録番号 306

北魏・太安 2 年 (456)

「剖」字未損本の善拓。清末～民国初期の画家、陸恢 (号：廉夫, 1851-1920) の旧蔵品。

(10) 積玄嵩造像紀／【整】目録番号 318

南齊・永明元年 (483) 7 月 15 日

曾祐生 (1892-1977) の印あり。珍品。

(11)魏靈藏造像記／【整】目録番号 356

北魏・景明年間（500-504）

3行目「空」字未損本。二玄社『中国法書選』より古い拓。

(12)康勝造像記／【整】目録番号 509

梁・普通4年（523）2月8日

四川省博物館蔵石。曾祐生の印あり。

(13)元欽墓誌／【整】目録番号 596

北魏・永安元年（528）11月8日

最終行，下から2文字目「従」字完好で初拓に近い。文物出版社より古い拓。

羅振玉，方若，董康，陶湘（号：涉園），陶洙の印あり。

(14)李長寿妻陳暈造釈迦像記／【整】目録番号 696

北魏・永安3年（530）6月13日

龍門石窟藥方洞の南壁にある。

(15)韓頭祖造像記／【整】目録番号 716

北魏・永熙3年（534）

楊守敬（1839-1915）の題簽，印あり。曾祐生の印あり。

(16)李道賛率邑義五百余人造像記／【冊】目録番号 774

東魏・武定元年（543）

アメリカ，メトロポリタン美術館蔵石。民国頃に出土後，石が割れる。宇野文庫拓は石が割れる前の拓。

(17)陸順華墓誌／【整】目録番号 807

東魏・武定5年（547）11月16日

(18)何道固造像碑／【冊】目録番号 971

隋・開皇6年（586）

王孝禹（1847-?）の跋文あり。拓本は希少。

(19)龍藏寺碑／【冊】目録番号 973

隋・開皇6年（586）

桂馥（1736-1805）の題簽あり。上田桑鳩（1899-1968）旧蔵。清朝後期頃の拓。擦拓。

(20)鄧州舍利塔下銘／【整】目録番号 999

隋・仁寿2年（602）4月

朱拓。珍品。

(21)宇文琬墓誌銘／【整】目録番号 1228

唐・天宝3年（744）10月

初拓。行書の墓誌銘。

(22)争座位帖／【冊】目録番号 1243

唐・広徳2年（764）

清朝前期頃の佳拓。

(23) 不空和尚碑／【冊】 目録番号 1262

唐・建中 2 年 (781)

中林梧竹 (1827-1923) の題簽, 跋文あり。

講演 2 (対談形式)

「書写書道教育の変遷とわたし」

講師 大東文化大学名誉教授 田中 節山 先生

進行 大東文化大学書道研究所 藤森 大雅 先生

進行：藤森先生

まず、先生の書道との出会いをお話しいただきたい。

講師：田中先生

私は長野県の山の中にある喬木村で生まれた。父が小学校の教員をしながら寺の住職をしており、私が小さい頃から父は寺で書道を教えていた。私も書道を学びたいと思い、教えてもらうように頼んだが、私には教えてくれない。

私の小学校入学は 1945 年、終戦の年であった。小学校は 30 人くらいの分教場に入塾し、高齢の先生に教えていただいた。その頃は「書道」という名称で、「書写」や「習字」でもなかった。小学校に入っても父は私に書道を教えてはくれず、書道を習っている様子を盗み見しては、書道をやりたいなと思っていた。

当時は、小学校 1 年生から書道の授業があった。大きく書く、点画を強く書く、そして、基本となるトン・スー・トンの繰り返しであった。ところが、終戦後に書道の授業は無くなってしまった。教育使節団のヤイデー女史が中心となり、小学校の書道の授業を視察した際、その指導の様子が軍国主義を招く要因に挙げられたためである。それにより、小学校 1 年生の後半には書道の授業が無くなってしまった。その後、小学校 4 年生の時に「書写」として再開された。それには私の師である上條信山先生の書道教育復興の運動があったのである。

中学校でも書道はあったものの、自分が通っていた中学校は山の中にあり、書道を教えてもらうことはできなかった。その後、高校に入学し、1 年時は音楽を選択したものの、書道の教員が上條信山先生の高弟であることを知り、さっそく書道部員としての活動を開始した。2 年時は書道を選択し、先生の指導のおかげで長野県の県展で最高賞を受賞したのは今でもよい思い出である。高校卒業の年に父親が亡くなり、将来は寺を継がなければならないということになった。その一方で書道への思いはさらに強くなり、大東文化大学へ進学し、上條信山先生に師事することになった。

大学卒業の際、教員採用試験にも合格した私は、上條信山先生の自宅へお礼のご挨拶に伺った。郷里へ帰ることをお伝えすると、「仕事なら俺が探すから、長野には戻らず東京で書の勉強を続けなさい。」と言われた。本来なら住職を継がなければならないところ、檀家の理解もあり、東京に残ることとなった。当時、上條先生が指導していた成蹊学園の教師の職を引き継ぎ、その後 17 年間指導することになった。

藤森先生

戦後という時代が書道教育に大きな影響を与えたとのことであったが、上條先生はどのように書道教育を再興しようとしたのか。

田中先生

上條先生は全国を行脚し、各地で講演会や講習会を開くなど、書写書道の再興運動を行っていた。

藤森先生

大東文化大学進学後のどのような指導を受けられたのか。

田中先生

その当時は書道の教員免許を取るための教科指導を中心に学習した。青山杉雨先生、宇野雪村先生、山崎節堂先生、熊谷恒子先生、上條信山先生等、素晴らしい先生に教えていただいた。

【質疑応答】

質問①

大学時代どのような指導を受けたのか。

田中先生

上條信山先生には教科教育法と楷書の指導をしていただいた。教科教育法の指導については厳しい指導であった。創作を重視し、高校生にもやらせるべきであるという立場であった。教科書には創作の説明が少なかったが、高校生が自分で創作の表現ができるように指導しなければならないといわれていたのが印象的であった。楷書の授業では、上條先生は手本を書いてくれるということではなく、臨書作品を持っていくと、半紙の左上に○を一つつけ、まだ十分ではない、もっと古典のテキストを見るようにと言われ、もう一度持っていくと、丸を二つつけ、これが五個の丸がつくまで学ぶという徹底した指導であった。

その他、宇野雪村先生は前衛書道で有名で、もっと違う表現をしなさいという指導も受けた。仮名では熊谷恒子先生に教えていただいたおかげで、高校で指導する際に大変役立った。青山杉雨先生の楷書の授業で書いていただいた「九成宮醴泉銘」の手本は今でも大切にしている。

質問②

創作の指導という話があったが、先生はどのように指導されてきたか。

田中先生

高校生にとって創作は難しいので、最初はいろいろな線の書き方から始め、自由に筆が動かせるようになったら、古典から集字して書くことを始める。それに慣れてきたら文字を変えてみたり、自分の好きなように書かせてみたりするように指導していた。

質問③

定時制で書道を教えているが、普段の授業では書道を楽しむということを中心ににおいて指導している。創作の指導を行うタイミングはいつが適切か教えていただきたい。

田中先生

中学校で書道をやってきていない生徒でも、高校でいきなり自由に筆を動かして書くことができる。これも一つの方法であると思う。自由に書いてごらんと書かせてみると生徒は頑張って書いてくれる。また、例えば北魏風に書こうとしてみると、自分で古典を探してきて書いてくれることもある。何も知識がなくても楽しんで書の世界に飛び込んでくれるので、あまり難しく、この通りやりなさいというのではなく、自由な発想で自由な線を表現するということから始めていくのもよいと思う。

質問④

漢字仮名交じりの書における古典の生かし方について教えていただきたい。

田中先生

漢字仮名交じりの書については、自分の好きな言葉を探して自分の好きなように書くことからスタートしたほうが良い。案外、生徒はうまく書くものである。自分の感動によって書が変わってくる。心動かされる体験を大切に、自分の心が動かされる言葉を選ぶことが大切である。平仮名の勉強が不十分でも可能である。

研究授業

「鑑賞の視点を広げる授業実践」

青森県立青森西高等学校 教諭 豊 沢 日乃梨

本授業は、3 学年文型 4 クラスのうち芸術・書道Ⅱ選択者の生徒を対象に実施した。表現活動に対しての意欲が高く、周囲の生徒と積極的に意見交流をしながら活動ができる集団である。鑑賞活動に関しては、感じたことを言語化する活動に苦手意識があるように見受けられる。学習の方法として ICT を用いて教室全体での意見交流を図りながら多様な意見や視点を取り入れる活動を促したい。また、事前活動として「文字を美しく書くことの必要性」に関して意見文を書いている。これから進学や就職にあたり文字を手書きする場面に直面する生徒が多いため、鑑賞の視点を広げ、文字の持つ効果について意識できるよう展開していきたい。

事前活動

「文字を綺麗に書くことは必要か」

8 割以上の生徒が賛成

〈生徒の回答〉

- ・丁寧な文字は読みやすく効果的に内容を伝えられる
- ・読み手を意識して丁寧に手書きすることで思いやりの気持ちが伝わる
- ・時間をかけて丁寧に文字を書くことで集中力や記憶力の向上につながる

2 割程度の生徒が反対

〈生徒の回答〉

- ・作品の目的によっては必ずしも丁寧に書く必要はない
(メモなどは丁寧さよりも記録することが重要である)
- ・あえて美しくないように表現することで目を引く作品になる

学習展開

導入

①行書「祭姪文稿」について学習することを伝える

②発問：怒りや悲しみは文字に表れるのか？

Google ワークスペースを活用し、生徒の意見を共有する

- ・筆圧が強くなる
- ・運筆が速くなる
- ・全体の雰囲気が雑になる、激しくなる

展開

①「祭姪文稿」の歴史的背景を確認

- ・手書きの普遍性について伝え、生活や現代の感覚に紐づける

②「開国」を半紙に臨書する

- ・スライドに投影しながら範書する

③表現の効果について臨書する過程に焦点を当てるよう伝える

- ・臨書する状況（感情）
- ・筆圧
- ・運筆
- ・全体の雰囲気（書風）

④用具用材と作品の関係性についても確認する



生徒の作品

振り返り

①表現と鑑賞の時間配分

「開国」についてその書き方の指導を充実させる必要があった。

直感的な部分を大切に鑑賞をさせる目的でまず書かせてみたが、筆使いや筆順が難しいとの意見が多かった。

②生徒の実態把握及び既習内容との結びつけ

「できるようになる体験」から生徒の主体性を引き出したい。

ICTの活用について

①Google スライドのコメント機能を使用し意見共有を行うことによりリアルタイムで教室全体に発信できる

②いいね機能を使うことで他者からの反応が記録に残る

以上の利点から、意見をより多く出させたい時はICTを活用するようにしている。反対に、じっくりと考えさせたい時には紙媒体で書かせるなど、使い分けをしている。実技との兼ね合いもあるので、事前に準備を済ませておくことを意識させている。書く作業も大切だが、書く過程での考える作業に重点を置くようにしている。

合評会内容

ICTの活用や、生徒の日常的な感情を踏まえて古典を身近に感じさせる工夫もあり、参考になった。小論文を事前に書かせたが、小論文そのものの指導は授業の中ではしておらず、意見を出させることに重点を置いて取り組んでいる。範書を先に見せていたので、考えさせる前に正解を示してしまった印象があった。感情と表現の関係性を意識させた上で、まず書かせても良かったのではないかと。弔辞の草稿ということを示した状態で、何を考えて書かれたものか感じたことを共有させてみる面白いかも。また、塗りつぶされた箇所にも注目させて鑑賞が深まるのではないかと。タブレットでは上手く作品が撮影できず、共有ができない場合があることについては、スマートフォンの使用も検討してはどうか。

研究発表

「これまでの教育実践を振り返る」

青森県立八戸東高等学校 教諭 諏訪内 博彦

1 はじめに

書道教員として、今年で40年目となる。振り返ると週5日制になる前は、芸術は3年生まで履修している学校が多かった。しかし、今では青森県では「書道Ⅰ」で終える学校が7割を超えていて残念である。他県では7割の学校が「書道Ⅱ」まで履修している。今回、「これまでの教育実践を振り返る」ということで、私なりにまとめてみた。少しでも今後の書道教育の参考になればいいと思う。

2 書道の導入部分について

①文房四宝の話の中で、さまざま筆（羊毛、イタチ、馬、鶏毛、パフォーマンス大筆…）などを生徒に見せたら興味津々だった。そして最後に息子の胎毛筆を見せたら、かなり受けた。いろいろな文房四宝を披露したほうがいい。

3 漢字の書について

①古典の話をする関係で、やはり中国や台湾には一度は行ったほうがいい。五感で感じることで話に説得力が出る。特に西安（昔の長安）にある西安碑林は見学しておくべき。授業では、その他に大雁塔、華清池、秦の始皇帝陵、万里の長城、紫禁城、台湾の故宮博物院などの話をした。

②唐の四大家を説明するときには、教科書以外のプリントを活用した。

そこにはそれぞれの人物像、時代背景、勉強方法などが書かれており、まさに「書は人なり」を生徒はよく理解できたと思う。実際、生徒の感想にもそう書いてあった。

③清書作品の中から、必ずいい作品を2点ぐらい選んでいる。そして次時の始まるの時間に黒板に貼り、解説をしながら褒めている。中学校ではどこがいいのか褒められた生徒がほとんどいない。解説することによって、鑑賞力につながると考えている。なるべく同じ生徒が褒められないように注意はしている。

4 漢字仮名交じりの書について

①イメージを膨らませる意味で、前年のいいと思われる作品は保管しておき、鑑賞させると良い。

②ほとんどの生徒は歌詞を書く。語句のルールは漢字、仮名、カタカナ、英語、ローマ字などから2つ以上混じっていること。横書きも認めている。

③4人一組のグループ学習を取り入れると良い。友人のいろいろな書き方が学べる。また鑑賞会ではそのグループで発表会をやると、恥ずかしがらずにやった。発表の仕方は学習プリント参照。作品に対するコメントは口頭だとなかなかはっきりと言わないので、学習プリントに書かせて本人に渡すと良い。残った時間は他の作品について、自由にコメントを書いて、作品の下に入れさせた。

④完成作品は部屋に飾っておける色紙にしている。

5 仮名の書について

①この单元だけは、墨を磨ったほうが良い。なかなか墨を磨る機会がないため。墨は少しずつ県費で購入した。現在は50丁ぐらいある。

②初期の仮名指導の段階では、古典を敷き写しにさせたほうが効果的。まず鉛筆で半紙の上から古典をなぞり、さらに小筆で書かせると良い。

③仮名用の小筆は新しく購入して配布したほうが良い。今まで中学校で使用してきた小筆は、穂先が効かないため。

6 篆刻について

①私は作業に12時間かけている。文科省での懇談では4時間で仕上げる学校もあり、驚いた。

②私は時間短縮のため、最近では簡単な陰刻だけ彫らせている。

③さまざまな印材を生徒に見せたら喜んだ。

7 授業の成果を必ず廊下に貼ると良い。

①管理職との面談で授業の成果を発表してほしいと言われたので、作品は廊下に展示している。本校はFKパネルに展示している。

掲示板は本校生徒が載っている新聞記事などが貼っており、使用できない。展示に時間がかかるので、掃除の生徒も使いながら展示作業をしている。今ではパネルでなく、ホワイトボードがいいと思っている。理由はマグネットで押さえることができ、簡単だからだ。事務室に交渉中。

②廊下に展示するメリットは本人の意欲がわくだけでなく、書道選択生以外の生徒にも書道について理解してもらえる。また教職員からも評価してもらえる。

③具体的には篆刻作品、色紙、蘭亭序半切2分の1作品、写経、一字創作作品など。展示する場合は解説文もそえると良い。教科書を切り貼りした解説文を毎年使うので、ラミネートしている。



8 範書について

①普段、黒板で、部分的な範書をする場合は水書板を活用している。洗わなくていいので、使いやすい。

②作品用の範書は年3回（漢字の書2回,漢字仮名交じり文の書1回）廊下で画仙紙に範書をしている。書画カメラではなく、実際に生徒を集めて書いて見せた方が、インパクトがあってよかった。また生徒の感想のなかには、「もっと先生の書き方を見たかった」という生徒がいた。範書を期待する生徒がいて、うれしかった。

9 朱墨での添削について

①文科省の教育課程委員会での発表会では朱墨の指導はしないという風潮がある。理由は自分で問題点を見つけなくなるため。しかし生徒の中には添削を望む生徒もいるので、私はしている。小中学校の時に一度も添削を受けたことのない生徒がいて、自分で問題点を見つけられない生徒がいたからである。また実際に書いて見せると生徒にとっては分かりやすい。添削の場合には4名までしか並ばせなく、他の生徒が飽きないように練習させている。

10 作品の評価について

①清書作品にはその都度、評価印（市販のもの）やコメントを付けて返却をしている場合と、学期ごとにまとめて提出させる場合がある。1学期、まとめてホチキスでとめた提出作品には、私のコメントを一人ずつ書いている。

②今は「ABC」で評価することになっているが、作品未提出でない限り「C」は付けていない。

11 今後の書道教育について

①今、ICT活用が問われているので、iPadの活用をしたいが、私自身まだ習得できていない。

②自分の作品について、プレゼンする能力が大切だと思う。そのためには鑑賞が大切。

③書道を日常生活にどう生かすかを考えるべき。

④作品作りにおいて、協働作業を取り入れた方がいい。コミュニケーション能力が養われるだけでなく、お互い教え合う作業が理解を深めることにつながる。たとえば蘭亭序の八字を協働で、四人で書かせた。

12 全日本高等学校書道教育研究会に参加して

①「逆向き設計」とは

・子ども達にこのような姿になってほしいというゴールを定めることが大切である。つまり、育てたい子どもたちの姿を実現する可能性を高めるために何を考えるべきかを設計することが大切である。

②グラデュエーション・ポリシーに合わせた書道教育をする。

・学校の四大綱領の一つに「真理」というがあるので、「開悟」を顔真卿の祭姪文稿から集字して、さらに創作させる。それが「新たな課題に対し、自主的に取り組む生徒」のグラデュエーション・ポリシーに合う。

③デジタルノート。ツールの共同作業スペースによる紙面構成

・一文字ずつ加工できるように画像処理して生徒の作品を共通素材とし、全グループに配布する。共同作業スペースにて一文字ごとに大小、配置などを自由に設定できる。自由に構想・工夫を行うことで、主体的に意見交換をし、表現効果を学ぶことができる。

大会の様子 (写真)



総会



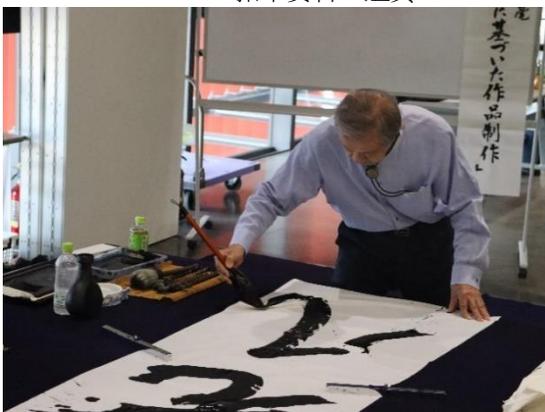
講演 1



拓本資料の鑑賞



講演 2



模範揮毫



模範揮毫



研究授業



研究発表

部 会 の 動 き

令和6年5月29日	第1回役員会	青森県総合社会教育センター
令和6年8月19日	第2回役員会	ねぶたの家ワラッセ
令和6年8月20日	青森県書写書道教育研究会・高教研書道部会研究大会（合同大会）	ねぶたの家ワラッセ
	(1) 書写研総会	
	・令和5年度事業報告	
	・令和5年度会計監査報告	
	・令和5年度収支決算報告	
	・令和6年度役員改選	
	・令和6年度事業計画	
	・令和6年度予算案	
	・心聲會展について	
	・令和7年度研究大会について	
	期 日： 集約日に開催	
	会 場： 青森市	
	講 師： 大東文化大学 教授 高橋利郎先生	
	研究発表者： 青森県立青森中央高等学校 吹田雅昭先生	
	(2) 高教研総会	
	・令和5年度事業報告	
	・令和5年度会計監査報告	
	・令和5年度収支決算報告	
	・令和6年度役員改選	
	・令和6年度事業計画	
	・令和6年度予算案	
	・心聲會展について	
	(3) 講 演	
	「大東文化大学所蔵『宇野雪村文庫』拓本資料について」	
	大東文化大学書道教育研究所 講師 藤森大雅先生	
	「書写書道教育の変遷とわたし」	
	日展特別会員・大東文化大学 名誉教授 田中裕昭先生	
	大東文化大学書道教育研究所 講師 藤森大雅先生	
	(4) 模範揮毫	
	「古典に基づいた作品制作」	
	日展特別会員・大東文化大学 名誉教授 田中裕昭先生	
令和6年8月21日	青森県高教研書道部会研究大会	
	(1) 研究授業	
	「鑑賞の視点を広げる授業実践」	
	青森県立青森西高等学校 豊沢日乃梨先生	
	(2) 研究発表	
	「これまでの教育実践を振り返る」	
	青森県立八戸東高等学校 諏訪内博彦先生	
令和7年1月10日	第3回役員会	弘前市百石町展示館
令和7年1月11日		
～12日	第48回心聲會展	弘前市百石町展示館

研 究 テ ー マ

紀 要 (集)	年 度	研 究 テ ー マ	会 場	会 員 数 (一・ 二希望)	大 会 参 加 数	大 会 発 表 者 数
48	15	○個性を尊重し、豊かな感性と生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	三八教育会館	38	26	3
49	16	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前市総合学習センター	45	43	3
50	17	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前市総合学習センター	35	32	3
51	18	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	大湊小学校 プラザホテルむつ	40	38	3
52	19	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	青森市文化会館 アラスカ会館	30	28	3
53	20	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	田舎館村文化会館 弘前プラザホテル	30	18	3
54	21	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前市総合学習センター 一弘前プラザホテル	26	21	3
55	22	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前市百石町展示館	27	23	2
56	23	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	五所川原市「立佞武多の館」	25	21	2
57	24	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	青森県総合社会教育センター	30	28	0
58	25	○基礎・基本を大切にし、生きる力を養う書写書道教育はどうあるべきか	八戸ポータルミュージアムはっち 八戸グランドホテル	30	26	1
59	26	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前市百石町展示館	30	23	1
60	27	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	県民福祉プラザ 青森県総合社会教育センター	24	25	2
61	28	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	八戸商工会館	21	24	2
62	29	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	弘前商工会議所	26	23	1
63	30	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	青森県立青森西高等学校	29	24	2
64	(令和)元年	○書の文化に関する認識を深め、書を愛好する心を養う書写書道教育はどうあるべきか	八戸商工会館	26	27	2
65	2	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止				
66	3	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止				
67	4	○生活や社会の中の文字や伝統文化への愛国心を育てるための書写書道教育の探究	青森県総合社会教育センター	27	21	0
68	5	○生活や社会の中の文字や伝統文化への愛国心を育てるための書写書道教育	青森県立三本木高等学校	26	15	3
69	6	○生活や社会の中の文字や伝統文化への愛国心を育てるための書写書道教育	ねぶたの家ワラッセ	27	25	2